

新体制1日スタート

サーブ 輸入販売 ヤナセとの交渉大詰め

PC I

VTホールディングスの輸入事業子会社「シーアイ（PCI、相原聡社長）によるスウェーデンのサーブ車の正規輸入事業が1日、スタートする。9月中に始動する全国のサーブ販売・サービス網は、新車販売24店舗、サービス工場78カ所となる見込み。さらに新車物流は車両陸送大

手のゼロ、部品物流はヤマトホールディングス子会社のヤマトロジスティクス（山内雅喜社長）に委託したほか、部品受発注の業務はヤナセ（西山俊太郎）の部用品販売子会社ヤナセオートパーツ（井上定社長）のシステムを利用して行う。

同社のサーブ事業開始時の販売車種は「サーブ9-3シリーズ」のセダン、ステーションワゴン、カプリオレ、クロスオーバー（X）の計4モデル。このうち新規追加モデルとして発表したばかりの9-3Xの販売に力を入れる。さらに12月には新型「9-5」を発売する予定。9-3シリーズの年内の販売登録計



画は100台で、年内受注目標は300台に設定した。

「パールモーターズ（和田昭生社長）12支店とヤナセ琉球

また新車販売網については現在、ヤナセ（西山俊太郎社長）グループとの交渉が大詰めに入った。ヤナセ側は、これまでサーブ車を扱ってきたグループの子会社ヤナセクロ

（山田清通社長）、さらにヤナセの販売協力店（特約店）11社でサーブの新車を扱う意向を示している。加えてサービス網もヤナセグループが主軸となる模様だ。